



様式第2号

令和2年10月22日

坂戸市議会議長 様

会派名 みらい

代表者名 小澤 弘



### 実施報告書

下記のとおり、調査研究等を実施したので報告します。

#### 記

1 期 日 令和2年10月15日(木) 午後1時30分～3時30分

2 参加者氏名

小澤 弘	田中 栄		

3 調査研究等の行き先及び内容

行き先	内 容
坂戸市役所 本会議場	坂戸市議会議員研修会 「最近の災害等とその対応～消防を取り巻く変化と 気象災害～」

4 概要

別添のとおり

## 坂戸市議会議員研修会報告書

1. 日 時 令和2年10月15日(木)午後1時30分～3時30分
2. 参加者 小澤 弘 田中 栄
3. 場 所 坂戸市役所本会議場
4. 内 容 「最近の災害等とその対応～消防を取り巻く変化と気象災害～」
5. 内容についての概要

坂戸市議会議員研修会では、前記内容について、講師の一般財団法人全国市町村振興協会理事長、元消防庁長官で気象予報士の坂本森男先生よりご講演をいただき、質疑応答を行った。

説明および主な質疑は次のとおりである。

### (1) 講演内容

(ア) 災害対応に関連して、厚生労働省事務次官に就任された、樽見元新型コロナウイルス感染症対策推進室長の講演会より得た、新型コロナウイルス感染症について以下の私見を紹介いただいた。

発生状況を見ると、4月のピークは高齢者が多かったこともあり死亡率6%、7月のピークは若い人の罹患が多く、死亡率0.9%であった。

総じて、30代以下は軽症で死亡者ゼロ、70代以上は重症化し死亡者もあり、世代間の差が顕著にみられる。

感染力としては、同じコロナウイルスの一種のSARSのような、多くの人への感染拡大の感染源となるスーパー・スプレッダーは発生していないが環境による感染拡大は見受けられる。会食やイベントやカラオケなどでの3密を避けることが重要である。手洗いとマスクを着用しての新しい生活様式が今後も必要等、今後の感染症対策について報告いただいた。

(イ) 消防を取り巻く変化として、風水害の多発化と大規模化、激甚化により、大規模な浸水被害や中小河川の氾濫、土砂災害、流木被害など多様な被害が生じている。各地での、地震や火山噴火の発生と、首都圏直下地震や南海トラフ地震など、大規模な地震及び火山噴火が懸念される。

オリンピック・パラリンピックなど大規模イベントや、テロ等、消防に求められる役割の変化が大きい。

(ウ) 令和元年10月の台風19号及び前線による大雨についての状況と消防機関の活動。埼玉県の地形特性と、大雨や大雪になる気象状況の解説等。

## (2) 質疑応答

問. 緊急消防援助隊について

答. 政令市が連絡調整を行っており、ハイパーレスキュー隊が応援要請に基づき、全国の消防機関相互による人命救助活動に出動する。平成30年9月の北海道胆振東部地震など、限局した災害に出動する。広域にわたる場合は、それぞれの地域での対応があるため、出動できない。

問. 線状降水帯の早めの予報は可能か？

答. 線状降水帯は、風や前線や地形効果によって発生し、水蒸気の供給が持続して可能な場合に発生する。梅雨前線の時期は九州地方に発生し、秋雨前線だと徐々に北上して発生するが、埼玉県の場合は海がないため、持続しての水蒸気の供給が為されないため発生しない。

## 6. 感想・所見

令和元年の台風15号と19号の違いが、観測データで鮮明に出ていることを理解した。

「空振りは何度してもよいが、見逃しはいけない！」というたとえ話は、災害に備える心持ちとしてその通りだと感じた。

災害対応は、事前にイメージしておくことが大切だとの言葉が心に残った。本市においても、去年の台風19号の被災は、死亡者は幸いにして無かったが、広範囲にわたる床上床下浸水により、多数の被災者が発生した。避難所も、事前開設や、多数の避難所設営、初の避難所の長期開設等が行われた。

机上の訓練はなされていたが、実際の対応では、課題も見られた。

議員としての動きについても、地震への対応は作成してあったが、水害の対応は、課題があり、見直す機会となった。

決壊した堤防は、国の援助により早期に以前より高く復旧することができたが、今般の台風と前線の複合化による大雨など、いつ災害に見舞われるか予断を許さないところである。「入間川流域緊急治水対策プロジェクト」の今後の治水の取組を注視していきたい。加えて、新型コロナウイルス感染症等、ソーシャルディスタンスをとりながら感染予防に備えねばならない等、事前にイメージして備えておくことが大切と再認識した。